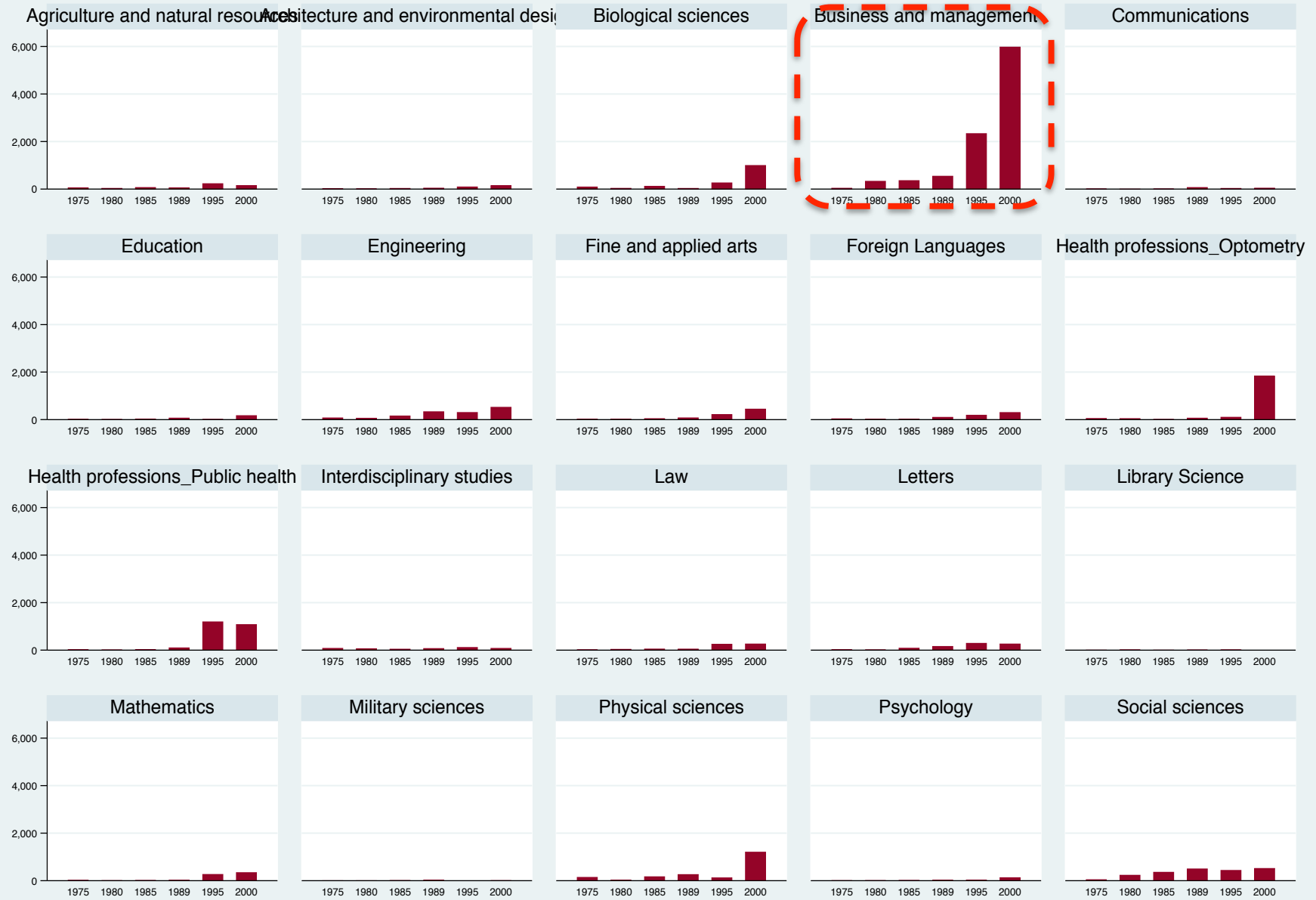
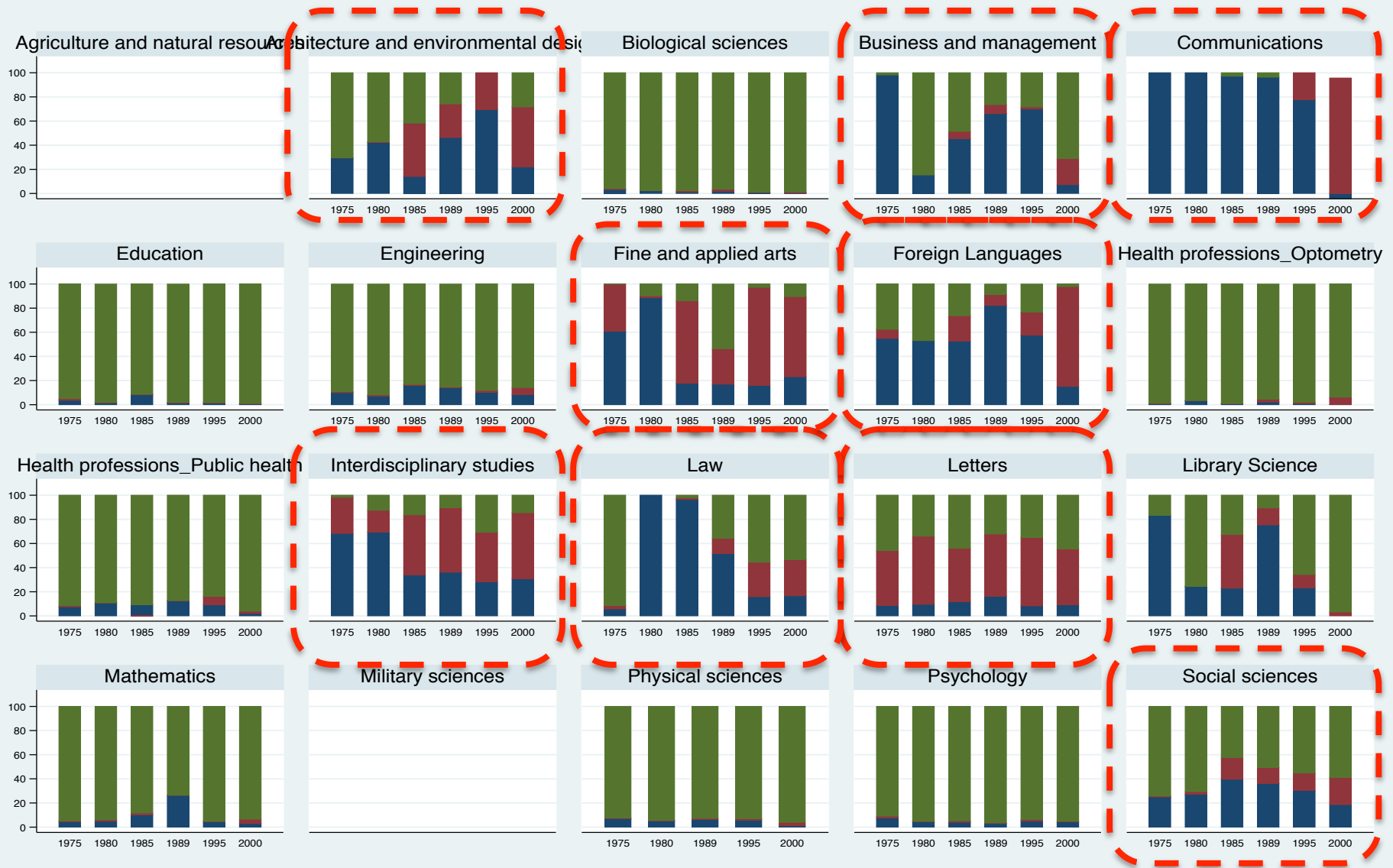


## Designated Fund\_Instruction (\$1000)



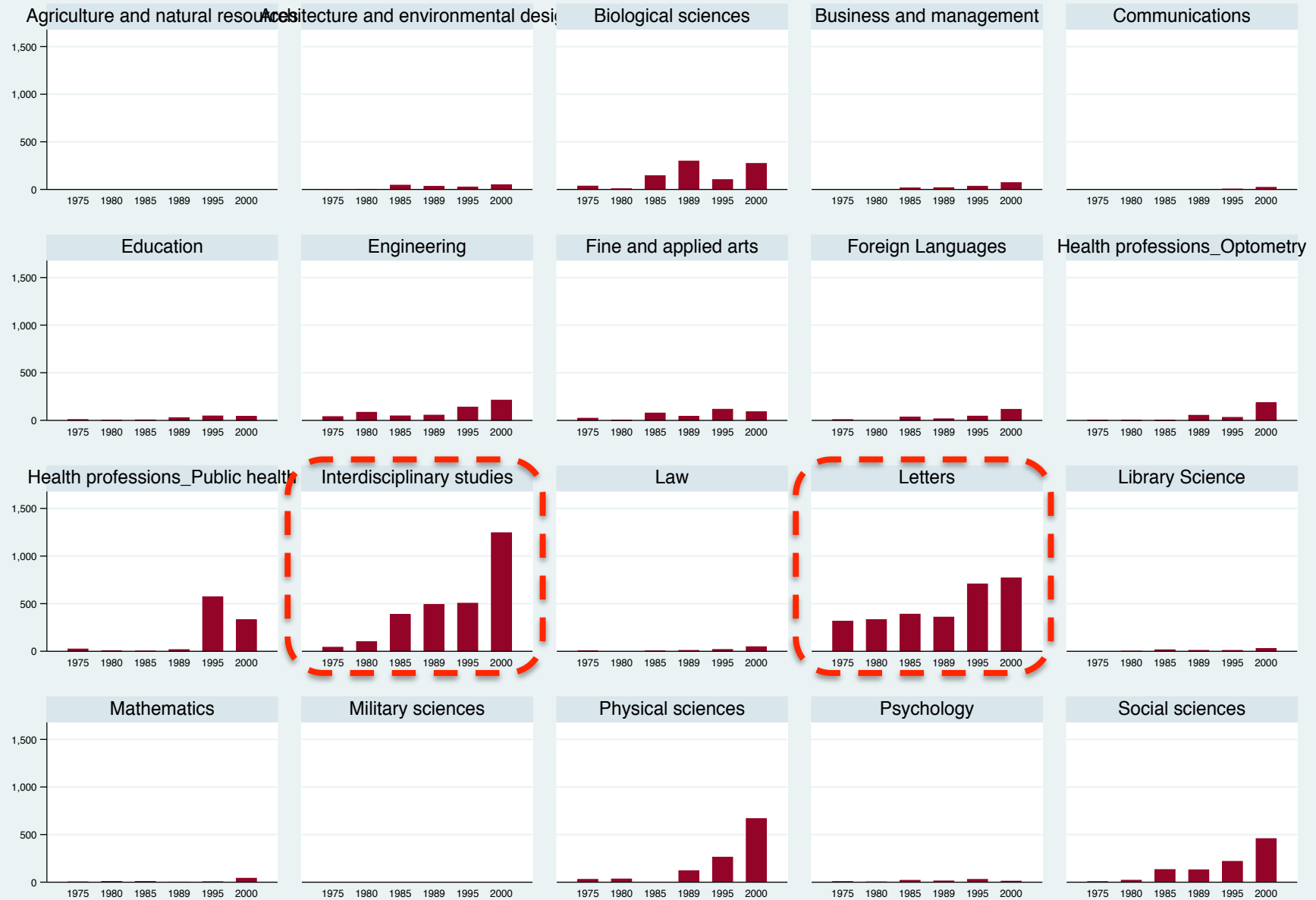
Sources: UC Campus Financial Schedules 1975, 1980, 1985, 1989, 1995, 2000

# EXPENDITURES ON RESEARCH (INDIVIDUAL OR PROJECT RESEARCH)



Sources: UC Campus Financial Schedules 1975, 1980, 1985, 1989, 1995, 2000

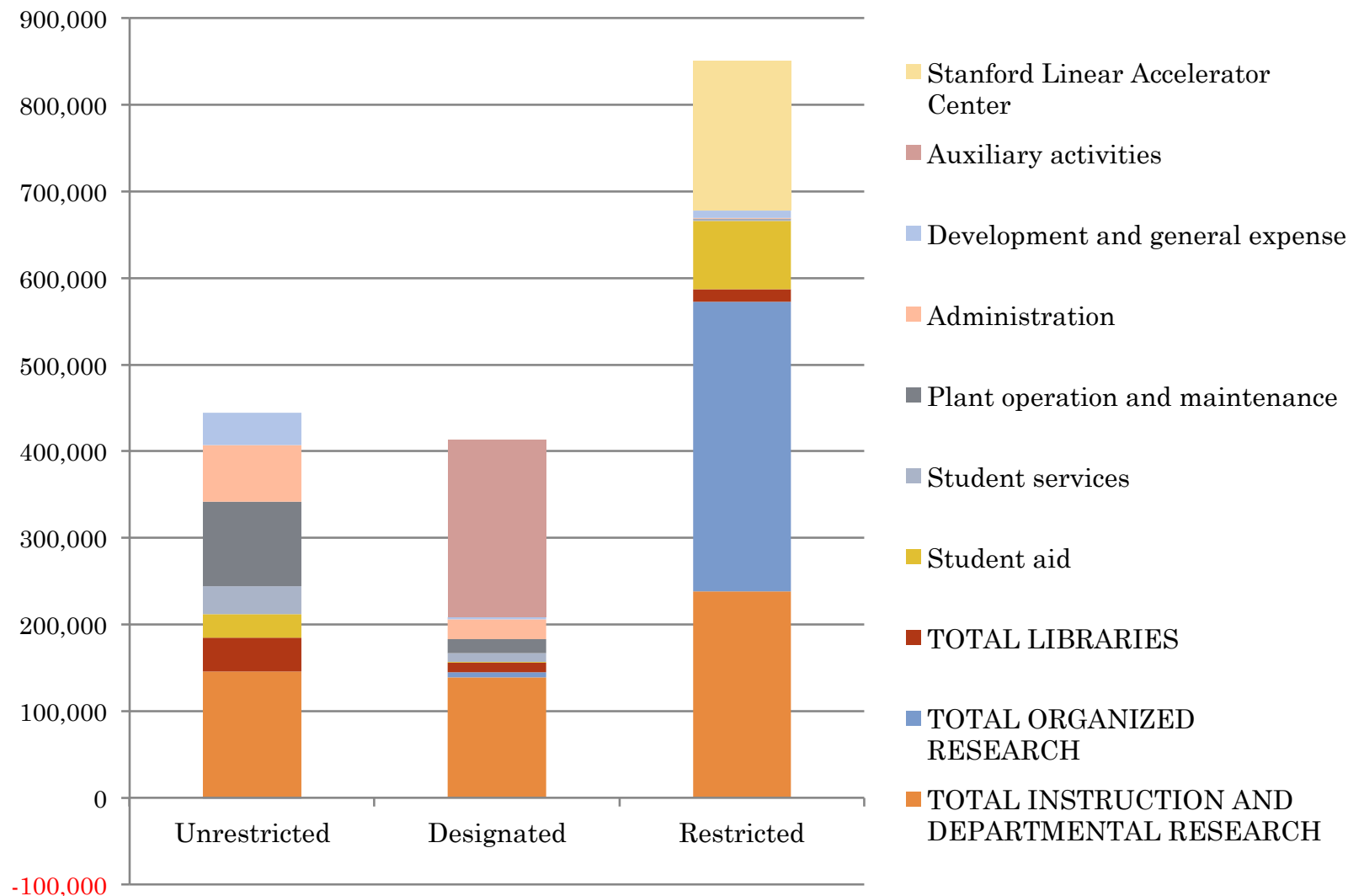
## Designated Fund\_Individual and Project Resaerch (\$1000)



Sources: UC Campus Financial Schedules 1975, 1980, 1985, 1989, 1995, 2000

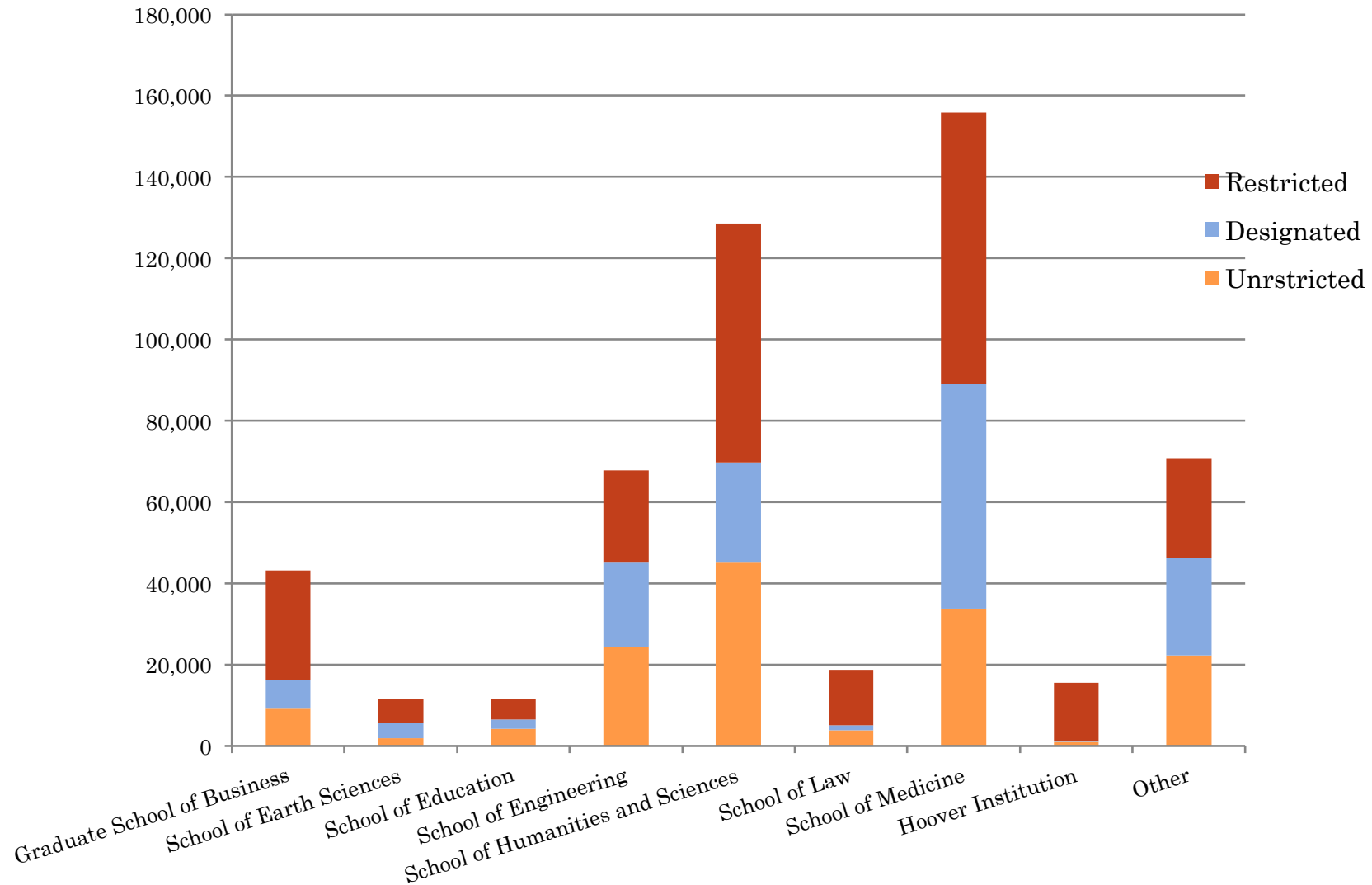
# DESIGNATED FUND の役割 (STANFORD UNIVERSITY)

## Expenditures Summary 2000 (Stanford: \$1000)



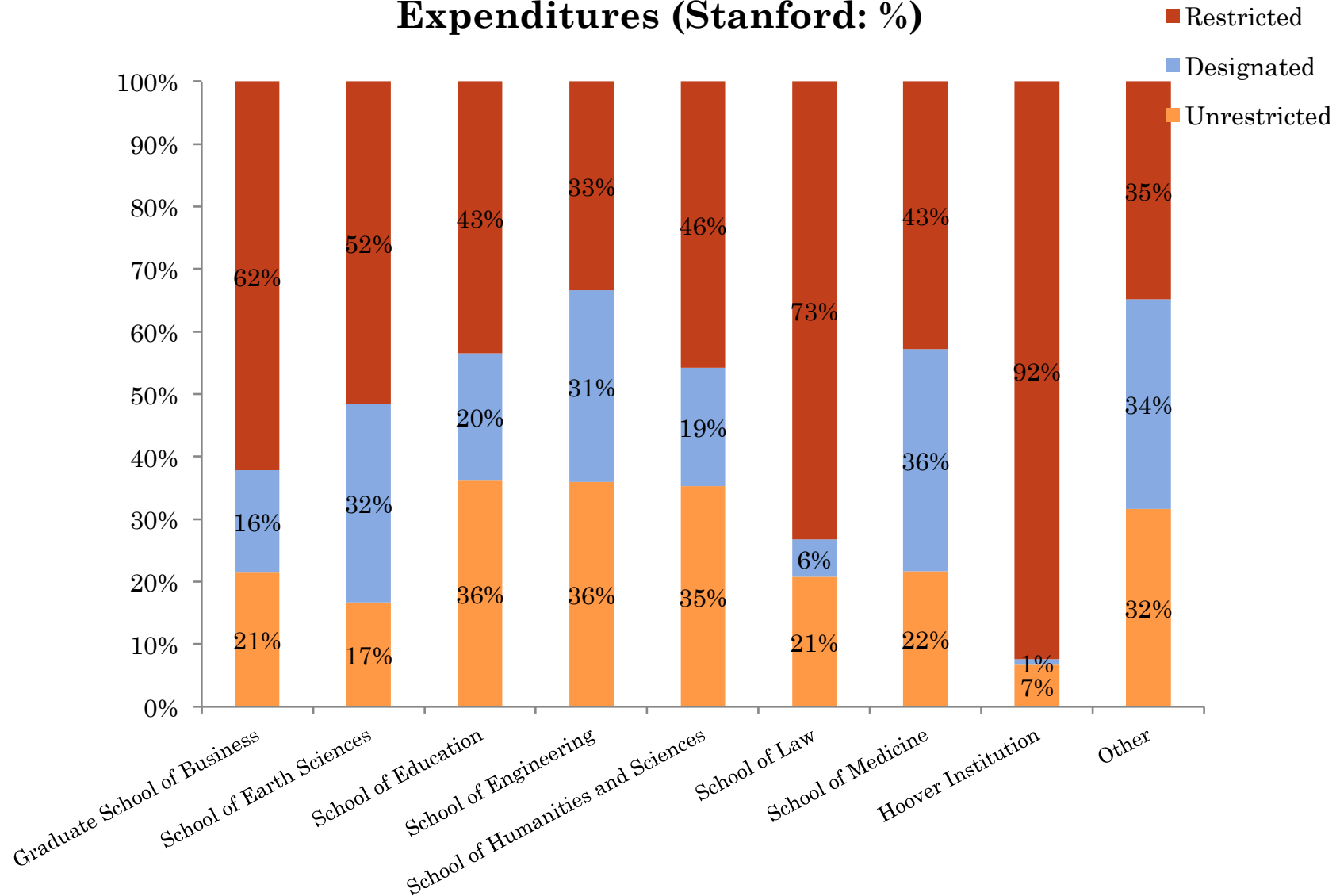
# スタンフォード大学 DESIGNATED FUND 部門別(1)

## Instruction and Departmental Research 2000 Expenditures (Stanford: \$1000)



# スタンフォード大学 DESIGNATED FUND 部門別 (2)

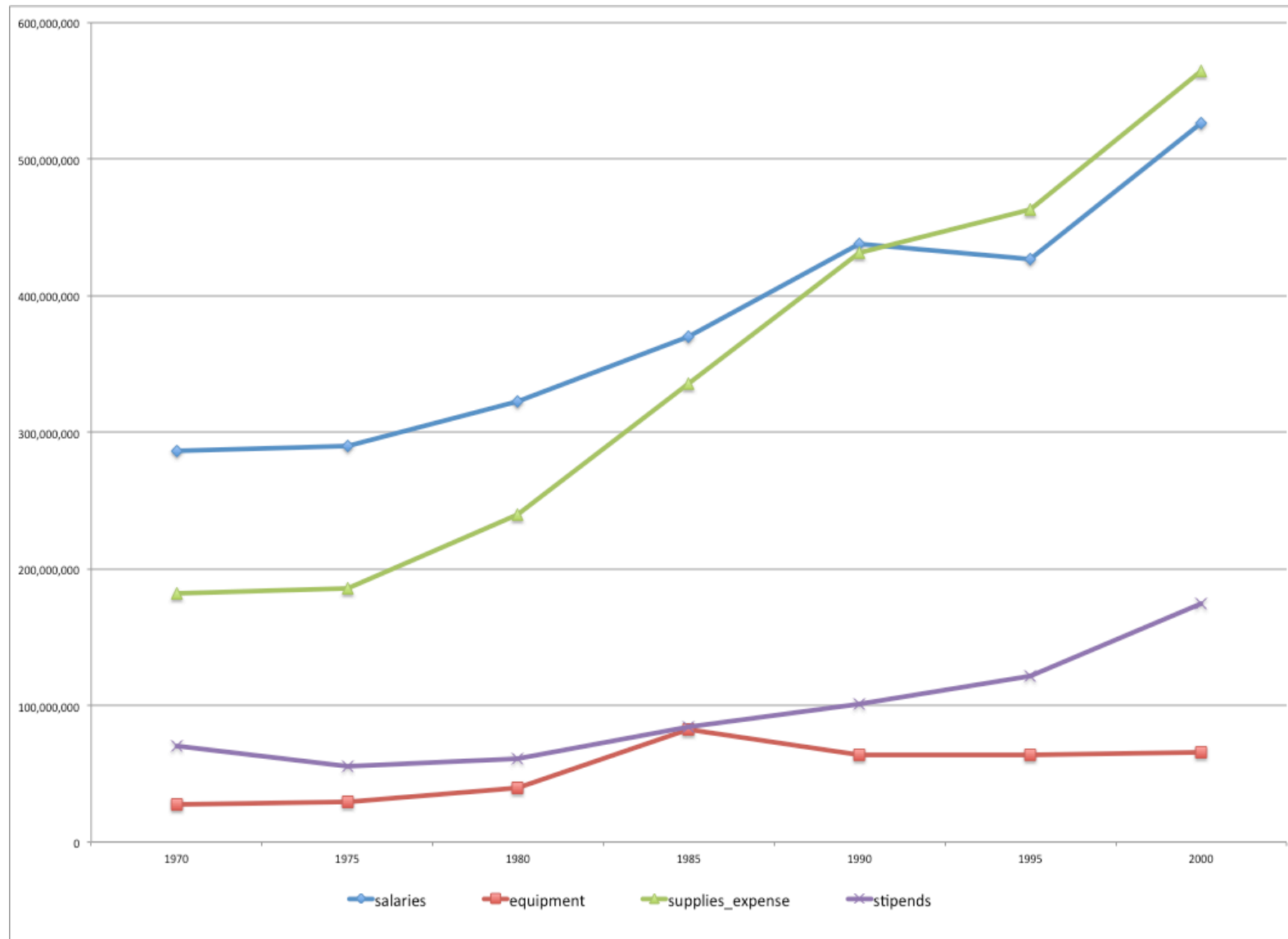
## Instruction and Departmental Research 2000 Expenditures (Stanford: %)



# 研究人材の移動と大学マネジメント

- アメリカにおけるアカデミアの拡大
  - 予算規模の拡大→分野ごとの違い
  - 研究者の person cost の上昇
  - 大学院における奨学金や Stipend の動き
- 研究者の本格的な移動の始まり
  - Brain Drain, Brain Circulation の本格化
  - 1990年代に始まり、2000年代に変化の動き
- 研究人材の変化
  - 世代別の研究者の大学への帰属意識
  - 伝統的アカデミアの長期的な帰属傾向
  - 若い世代の研究者の帰属傾向の低さ
  - アカデミックだけのスター研究者：論文の生産性
  - イノベーションに関わるスター研究者：特許の生産性

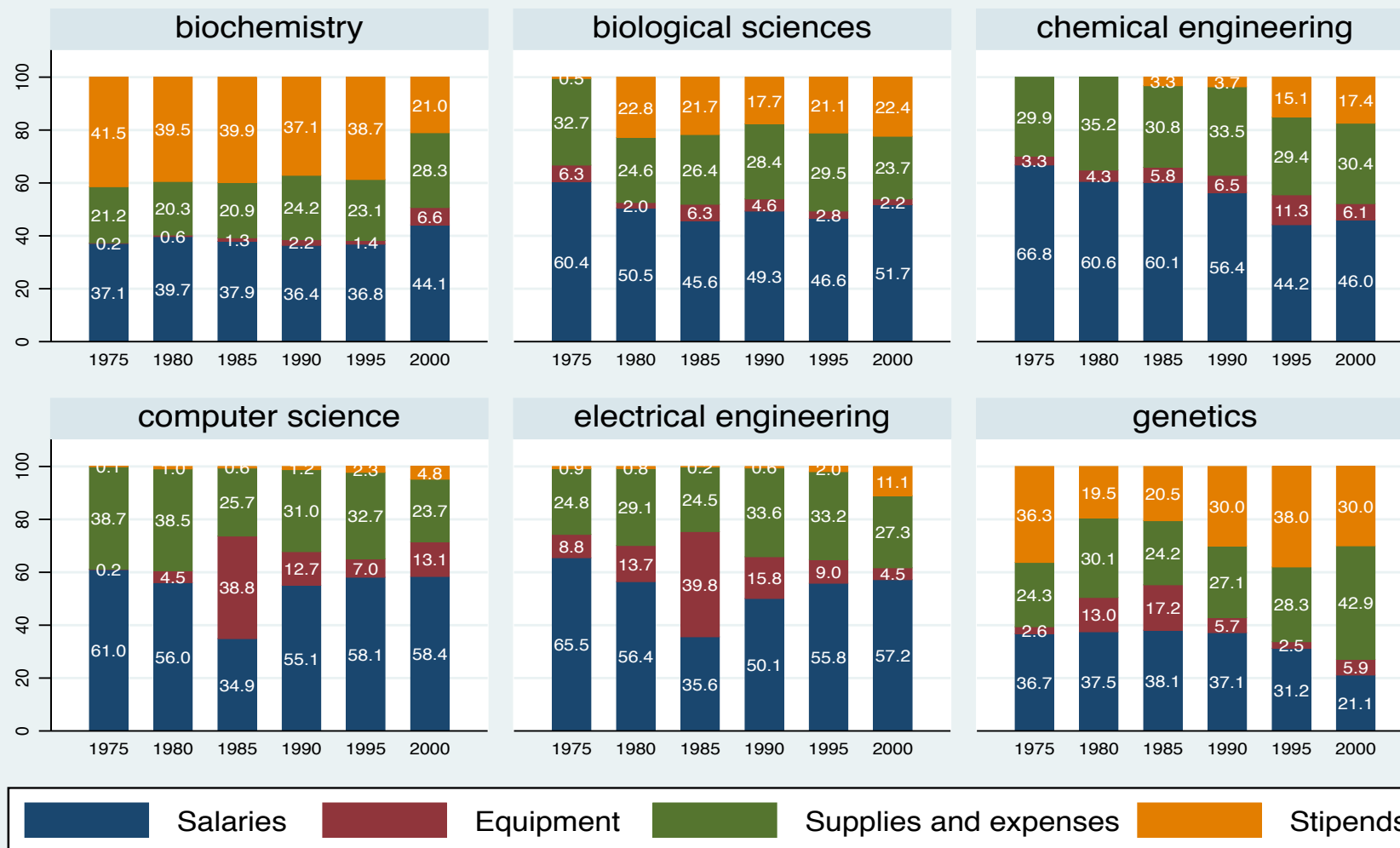
# 教員給与の上昇と奨学金 (STIPEND) の増加 (スタンフォード)





# Operating Expenditures: Instruction and Departmental Research (%)

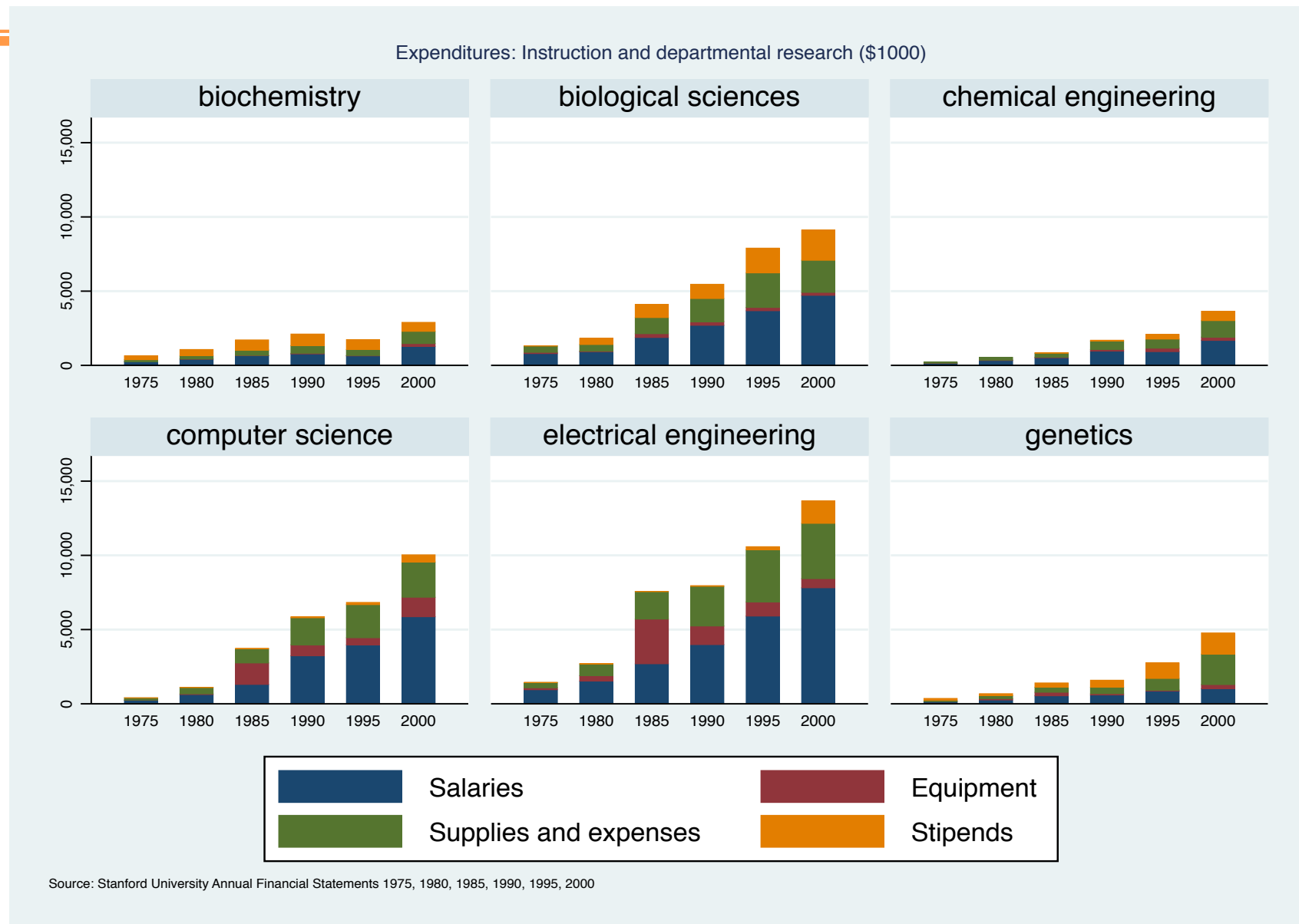
Expenditures: Instruction and departmental research (%)



Source: Stanford University Annual Financial Statements 1975, 1980, 1985, 1990, 1995, 2000

メモ1: Computer sciencesは、1975, 1980, 1985はSchool of Humanities and Sciencesの細目に掲載されていたが、1990, 1995, 2000はSchool of Engineeringの細目に掲載されており掲載上の値を使用した。

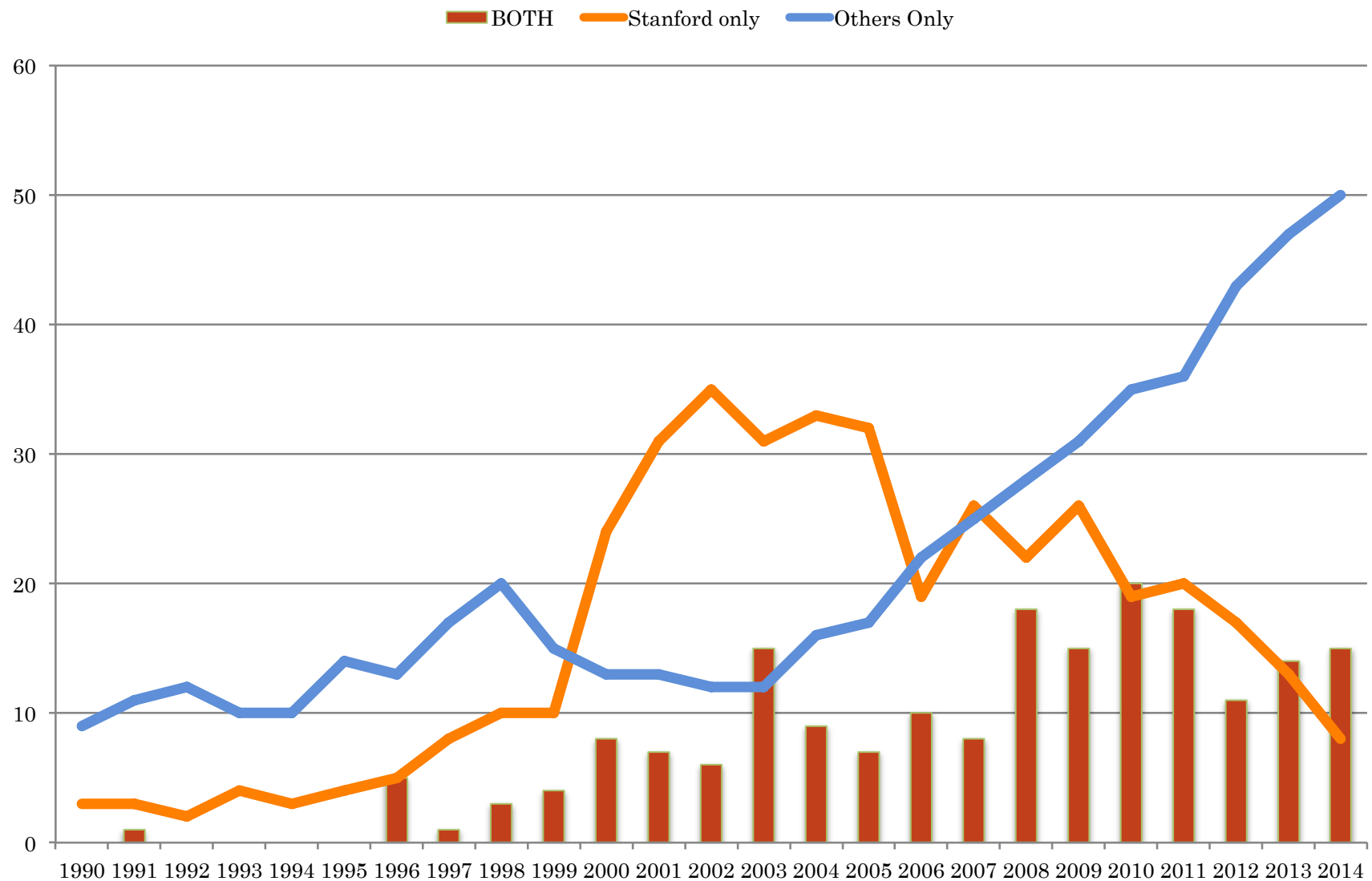
# Operating Expenditures: Instruction and Departmental Research



メモ1: Computer sciencesは、1975, 1980, 1985はSchool of Humanities and Sciencesの細目に掲載されていたが、1990, 1995, 2000はSchool of Engineeringの細目に掲載されており掲載上の値を使用した。

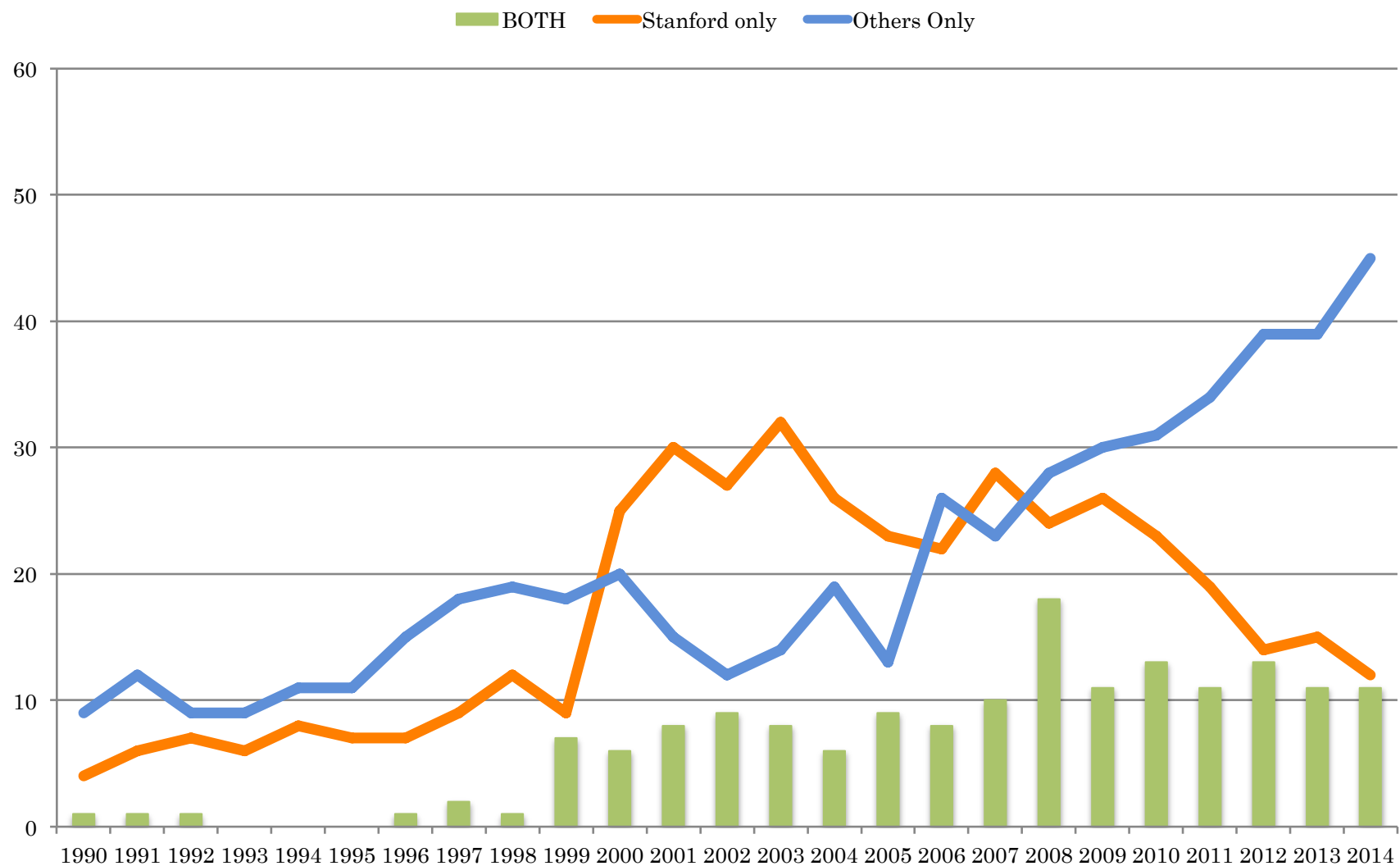
# スタンフォード大学スター研究者(生命科学)の移動 (1)

## Biochemistry



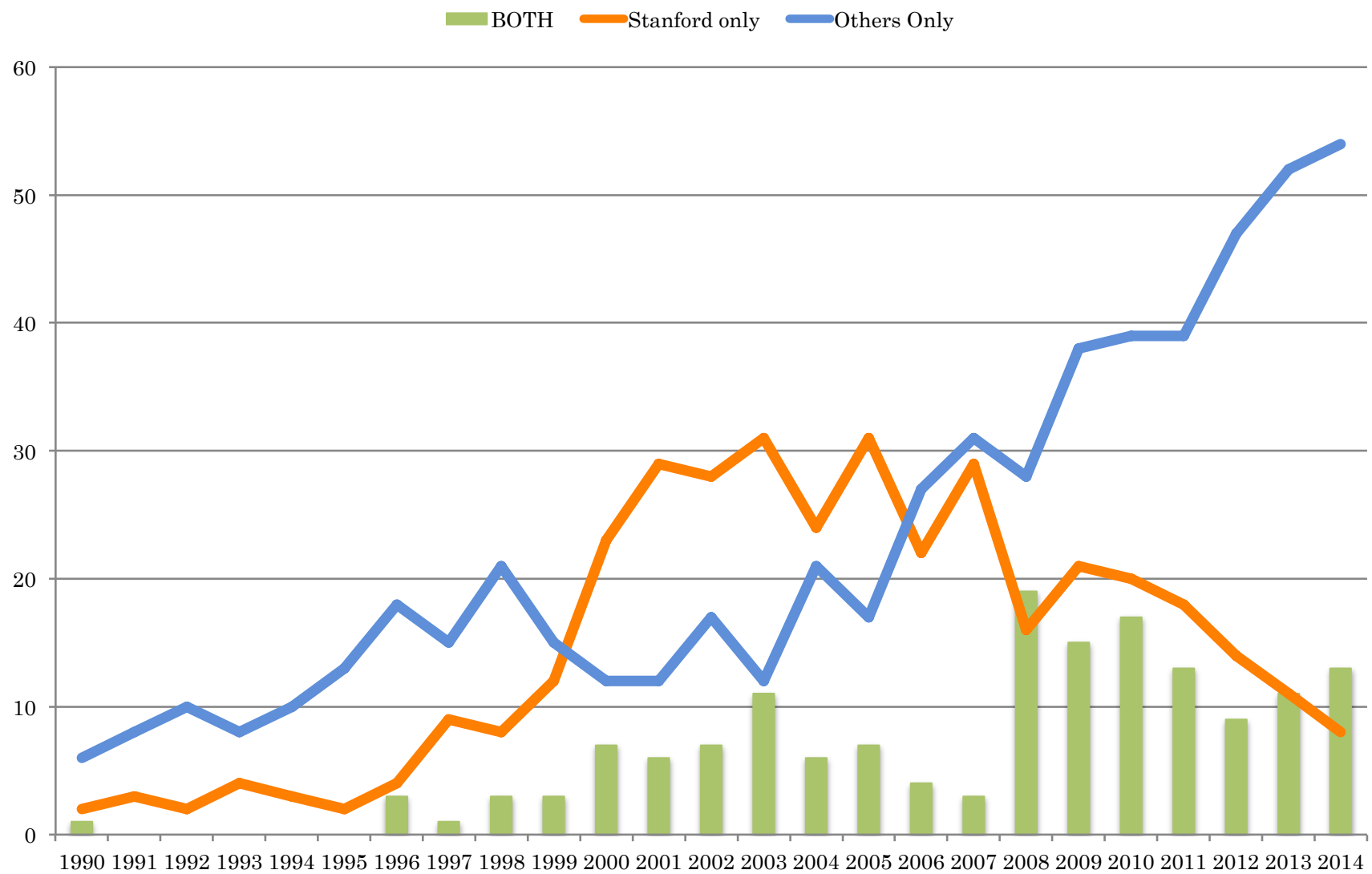
# スタンフォード大学スター研究者(生命科学)の移動 (2)

## Genetic Heredity

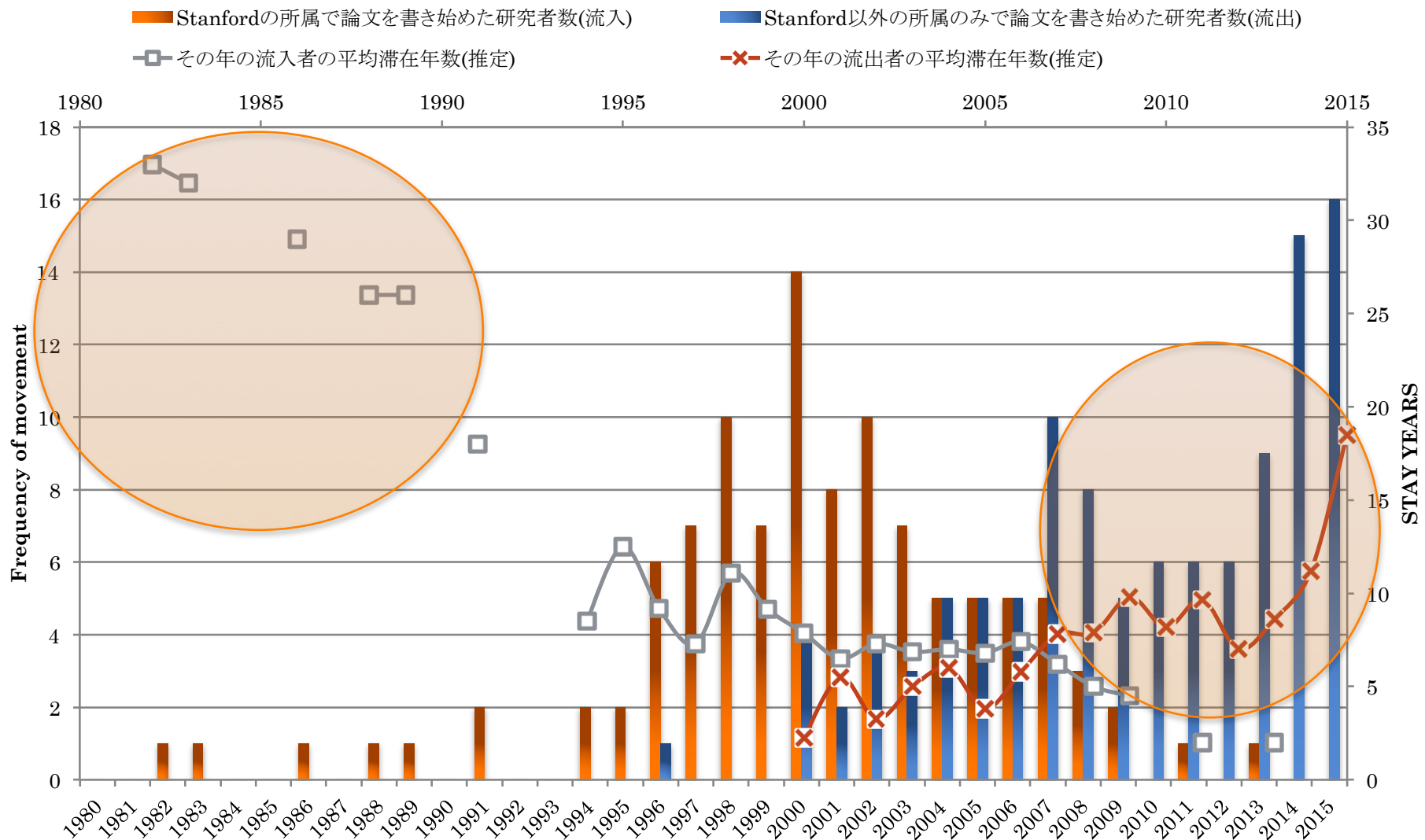


# スタンフォード大学スター研究者(生命科学)の移動 (3)

## Cell Biology



# Stanfordにおける研究者の流出と流入、平均滞在年数の比較1980-2015 / BIOM



- ・1980年代に移籍してきた研究者者は長期滞在？
- ・2000年代に移籍してきた滞在期間が短く、流出する傾向？
- ・2010年代に流出した研究者は滞在期間が長い？

対象研究者数100名、N=110

## 結 語

- 日本の研究大学の財源の多様化の必要性
- 個々の研究大学の財務戦略の見直しの必要性
- 研究大学への財務上の規制緩和の必要性
- 研究大学での経営戦略としての人材育成
- 研究者コミュニティを拡大させるものとしての融合型人材への投資
- 研究者コミュニティの拡大とアカデミアの範囲の拡大